

NEWS

一般社団法人 愛知県産業廃棄物協会 第6回「安全大会」開催

2月1日（木）午後1時30分から名古屋国際会議場（名古屋市熱田区）において（一社）愛知県産業廃棄物協会 第6回「安全大会」が開催され、職場における安全への意識向上を図るべく会員88名が参加しました。

安全大会は司会進行を常務理事 中野兼司氏が執り行い、開会のことばを安全衛生委員 中嶋政秋氏が述べ、続いて会長 永井良一氏、安全衛生委員長 加山昌弘氏が挨拶を述べました。来賓として愛知労働局労働基準部安全課長 三好了氏をお招きしました。

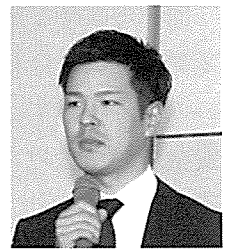
講演会は「産業廃棄物処理業における労働災害事例と粉じん障害防止について」と題して、中災防中部安全衛生 サービスセンター専門役 安全管理士・衛生管理士 竹平英敏氏をお招きしました。労働災害発生の仕組みとして、スマートフォンに夢中で歩く（不安全な行動）+マンホールの蓋が開いている（不安全な状態）=災害、を例に挙げ、労働災害はヒューマンエラーとの共存であり、ある確率で人は必ずミスをする！と述べました。基本的対策は「設備対策」、不注意対策は「指差し呼称」の徹底が望ましいとのことでした。じん肺では、PM2.5の有害性や高齢者ほど短期間でじん肺になりやすいという集計結果等の説明がありました。粉じん障害防止対策として、作業に当



講演する中災防
竹平専門役

たる場合は国家検定合格品の呼吸用保護具を装着し、サージカルマスクでは保護具にはならないと説明がありました。また呼吸保護具の正しい装着についても細かく指導がなされ、参加者は自己流の装着方法と比較し、改めてじん肺防止のための防じんマスクの重要性について認識できた講習会でした。

安全衛生の取組事例では、「職場の安全衛生活動の取組み」と題して、会員企業2社から発表がありました。はじめに（有）愛知環境センター取締役 東久保翔平氏は取組事例として、安全な作業を行うための服装、作業指示書、安全衛生教育の実施、緊急時対応訓練の実施、防災・避難訓練の実施等を挙げ、最後に一番怖いものは「慣れ」であり、全社員共通の安全意識が持てるような環境作りをしているとのことでした。質疑応答では「BCPは策定していますか。」の問いに、今後策定を行うとのことでした。次に（株）相建工場長 尾田保久氏は自社の労働災害を例に取り、事故の原因を探りだし、安全への認識不足に着目して「死角」について図解しました。死角を意識することで危険予知活動を行い、指差し呼称、ヘルメットの正しい装着方法等の具体的な取組について述べました。質疑応答では「災害後の安全衛生活動の取組後の成果はありましたか。」の問いに対して、その後の事故はありませんとの回答でした。



発表する（有）愛知環境
センター 東久保取締役



発表する（株）相建
尾田工場長



その後安全宣言では、安全衛生副委員長 平沼辰雄氏が登壇し安全宣言の一斉唱和が行われ、安全衛生委員佐藤智和氏の閉会の言葉にて安全大会は終了しました。